

2018年12月25日 千葉大学アカデミック・リンク・センター 第3回ALPSセミナー
「学び」を促す環境デザイン ～はこだて未来大学の取り組みから～

参加者アンケート

当日参加者数： 63名 アンケート提出数： 43件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のセミナーに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・教職員のコミュニケーションが、まず、基本だと感じました。
- ・新しい大学とは知っていましたが、創設時からこのように塾考されていたのですね。
- ・ライブラリの事例をもう少し詳しく紹介していただきかったです。
- ・ハードウェアがなくてもソフトウェアとマインドウェアで変えられる。
- ・共同体としての学び、共同体としての教職員の努力が大切なことがよくわかりました。
- ・ハードウェア、ソフトウェア、マインドウェアの3つが学生の学びを促すために重要な要素であること。
- ・教員自らが少しずつストレッチしていった新たなタスクに取り組むことが大切である。
- ・マインドウェアの大切さや職際性という考え方に初めて触れました。今後、意識していきたいと思います。
- ・開学前から現在までの歩み、変化、改善のプロセスがよくわかりました。
- ・マインドウェア(共同体)の学びの重要性。
- ・学び合う関係、学習共同体の持つ力を再認識しました。
- ・ハードウェア、ソフトウェア、マインドウェア
- ・私自身の組織ではできていないことが、未来大ではできていることがわかった。(が、どうやるのかはよくわからなかった。)
- ・知識獲得から参加過程へ(学習観の転換から生まれた実践)
- ・是非、未来大学に伺いたいと感じました。
- ・教員だけではなく、職員の人も協働して運営しているところが、すごいと思った。
- ・振りかえり、ではなく、みいだす(概念化)
- ・共同体としての問題解決が本学ではできているだろうか。マインドウェアという考え方が心に響きました。
- ・できない理由を考えるのではなく、どこからできるのかを考える姿勢
- ・「振り返る」ことで終わるのではなく、「見出す」ことの重要性
- ・小さな大学だからこそできることがある、ということ。他の教職員との信頼関係を築き、できることを見つけて楽しむつもりで、「学び」の環境をつくるということ。
- ・学生同士のフィードバックをするために、チューター制度が有効であるということ。
- ・はこだて未来大学の取り組み全体から多くのことを学ばせていただきました。教えることと学ぶことの違い、チューター制度、プロジェクト学習、チームティーチングをはじめ多くの発見がありました。
- ・はこだて未来大学の取り組み実践が具体的に示されてよく理解できた。
- ・Open space, open mind
- ・ライブラリアンの活動「探検地図」のつくり方、オリエンテーションに導入してみたい。自分で書かせることでより理解が深まると思う。
- ・大切なのは、教職員の学習共同体であり、マインド、ソフトが重要であるということに気づいた。自分の学びをデザインするという言葉、学生を「支援」していくという姿勢、すべてを見せることによって周りが影響されていくということ。

(次ページに続く)

- ・全てが発見でした。
- ・改めて空間が学習に与える影響について考えさせられました。
- ・オープンマインドは本学でも大事にしています。やってきたことを見直す大変良い機会となりました。
- ・大学図書館が重要だと感じられている事が改めて共有されている状況が理解できた。
- ・進化し続ける大学のマインドセットがわかりました。文系授業も参考になる点が多く、チャレンジしたいと思いました。
- ・“学び”を促すために、ハードウェアだけでなく、ソフトウェアやマインドウェアも必要なこと、また、学生だけでなく教職員の学習共同体も必要なこと。これらは、本学で不足していることだと思う。
- ・「仕切りをなくそう」5つのデザイン、今重要だと思うこと(ハードウェア、ソフトウェア、マインドウェア)のコンセプト、整理されていて理解しやすかった。
- ・学生に学ぶという姿勢を教えることが大切であるということ。かく→つくる→みいだす この流れ
(以上原文まま)

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・OPEN Mind すてきです！！
- ・SD,FD は、個人の資質向上だけではなくて、よりよくなるとうとする学習共同体の構築であるという考え方に気づかせて頂くことができました。
- ・マインドをどう作っていくか。
- ・ハードウェアをOpenにするだけで、マインドまでオープンになるのか？
- ・マインドウェアの育成方法は？ →積極的なコミュニケーション？ →とりあえずダメでもやってみよう。
- ・わからなかったことではないのですが、SDGS についての取り組みについてもう少し伺いたかったです。
- ・SDGs と大学が向かう方向性を整理したかった。
- ・カリキュラムの編成
- ・ピアチューターの制度について、もう少し実践例を聞きたかった。
- ・図書館の関わり方やライブラリアン自身の学び方をもう少し詳しく知りたかった。
- ・チューターをどのように集めているのか
(以上原文まま)

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・SA 制度はここ数年 本学でも取り入れています。中でもリーダー格となるコア SA の時給を他の SA より高く設定し、役割分担やシフト決め等もやってもらっています。
- ・今日のように他大学の事例を知ることは大事だなと思います。
- ・なかなか教員と職員、職員と職員が連携して何かをするまでいくのが、難しい段階であるが、一人一人が、共同体であるとの認識が必要である。本学では、実習科目に関しては複数人の教員が入り、授業を行っている。
- ・ともに学ぶ姿勢
- ・チームティーチング、まさに図書館職員で現在、授業を担当しており、チームでうごいているので、よりよいものを作っていきたいと考えています。
- ・教員のワークショップ、教員のワーキンググループ
- ・社会への広げ方と、持続性に課題をもっています。
(以上原文まま)

4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・非常に有意義でした。先生のしめくくりの「おとなのアクティブラーニング」という話が印象に残りました。
- ・先生のお話が明快でわかりやすく、また、おしゃれで大変すてきでした。
- ・とても刺激もらえました。ありがとうございました。
- ・若手の教員がすぐやめていってしまいます。旧来の重ちんの先生方、理事の発言力が大きく新しいことを中にとり入れられない風潮なのが悩みです。
- ・非常に刺激的でした。大人のアクティブラーニングをしようと感じました。
- ・とてもよかったです。
- ・地方の小さな単科大で何ができるか考えていき行動したいと思います。
- ・講演内容をしばって欲しかった。いろいろやっていることはわかったが…。
- ・折角参加しましたので、出来るだけまとまった時間、学びたいと感じました。一時間は流石に短すぎると思いました。(美馬先生の時間オーバーに感謝します！)
- ・学生の学びからFD・SDにまでつながる話で大変勉強になった。少し早いかなと思ったので、資料もしくは、もう少しゆっくり話してほしかった。(メモを取り切るのが…)
- ・学んでもらう要素を概念化していこうと思います。
- ・学ぶという考え方、チームでの働き方について参考になりました。
- ・まだまだ聞いていたかったです。ありがとうございました。
- ・どうしても、美馬先生のお話を伺いたかったので、お時間をいただけたことに感謝しています。
- ・ハードウェアが整備されていなくても出来ることがあるというところに非常に感銘を受けた。
- ・素晴らしいセミナーでした。ありがとうございました。
- ・ポジティブな気持ちになれました。教材を作る立場として、考えることをやめず、会社のルールのしぼりやリソース不足などのマイナス要因を愚痴るのではなく、よい学びを作るためにたえず工夫していきたいと思います。
- ・事例が多数(写真・ビデオ)示されてよくわかった。
- ・プロジェクト学習は、看護学的にいえば、統合実習と同じで、「ものづくり」と「人への支援」とコンテンツはちがっても課題設定をして、解決するという点では同じ学際性の可能性を感じた。どういう学生を育てていくか、それが中軸。
- ・大学人として、興味深い内容が多かったが、教育論ではなく、図書館の空間デザインの話について掘り下げて話をしてほしかった。ライブラリアンの活動、取り組みについてももう少し時間をかけてほしかった。
- ・とても素晴らしい内容、講師でした。また、重ねて開催して欲しい。
- ・プレゼンがとてもおもしろい構成でした。
- ・学習支援について非常に参考になった。チューター指導や今後やるべきことについて参考となった。
- ・大学によっては、これ程熱心に、学生の教育に関わる教員集団がいることに、感銘を受けました。

(以上一部改訂)

5. 次の(1)、(2)について、該当するものに○をつけてください。

(1) a. 千葉大学外の方 31名 b. 千葉大学内の方 4名 (回答なし 8名)

(2) a. 学生 0名 b. 教員 15名 c. 大学職員(図書館職員を除く)10名 d. 図書館職員 8名
e. 出版関係 1名 f. その他 9名 (回答なし)

6. セミナーを何で知りましたか? (複数回答あり)

a. Web(アカデミック・リンク・センター) 6名 b. Web(図書館) 2名 c. Web(千葉大学) 0名
d. 図書館内電子掲示 0名 e. ポスター1名 f. センターからのメール18名 g. Facebook・Twitter 1名
h. asagao メーリングリスト 12名 i. その他 5名 (知り合いからの紹介など)

7. 学外(千葉大学外)の方にお伺いします。次の(1)、(2)について、該当するものに○を付けてください。(複数回答あり)

(1) 参加の経緯: a 所属機関からの推薦・業務命令 6名 b 自身の希望 33名 (記載なし 5名)

(2) 旅費の負担: a 所属機関負担 23名 b 自己負担 13名 c その他 (記載なし 7名)

8. 千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です)

お名前: () ご所属: ()

電子メールアドレス: 申込時に利用したもの それ以外 ()

ご協力ありがとうございました。

※ 12名が新規に継続的な情報提供を希望